

病虫害発生予察情報

令和5年6月30日

病虫害発生予察情報（飛驒地域） 7月予報

今年は早く梅雨入りし、雨の日も多く病気の発生が増加傾向にあります。
梅雨明けは平年と大きく変わらない予報ですが、梅雨末期は大雨となることも多く、ほ場の排水対策や衛生管理、適正な肥培管理も重要です。
病虫害対策は、よく観察し、早期発見・早期防除にこころがけましょう。

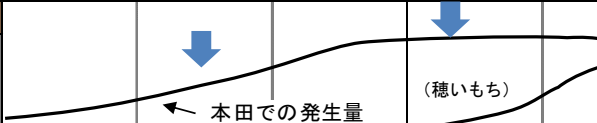
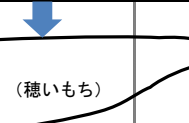
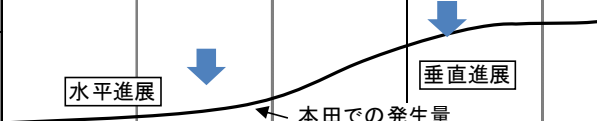
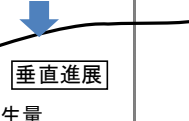
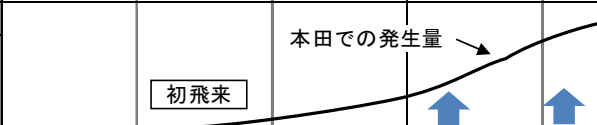
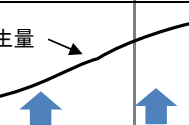
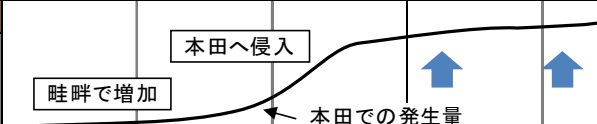
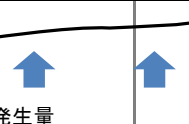
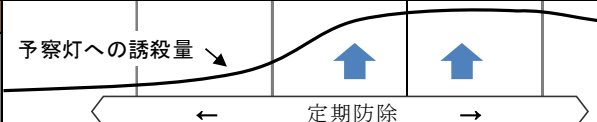
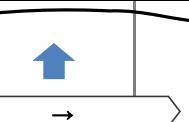
【水 稲】BLASTAMによる葉いもち感染好適日の出現が下呂市で多くなっています。
また、3年連続で飛驒地域広範囲にいもち病が発生しているので、コシヒカリやひとめぼれ等のいもち病に弱い品種は特に注意が必要です。

【果 樹】チャバネアオカメムシのフェロモントラップ及び予察灯への誘殺が5月中旬から継続的にありますので、発生に注意しましょう。（次ページグラフ参照）
もものせん孔細菌病は、前年よりも発生の多い園があり、りんごの斑点落葉病等病気の発生もみられるので、発生拡大に注意しましょう。

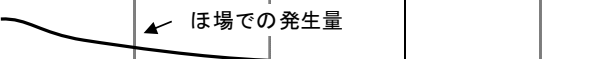
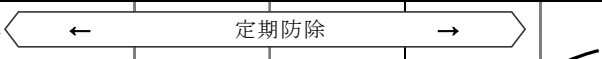
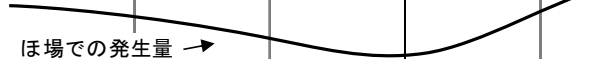
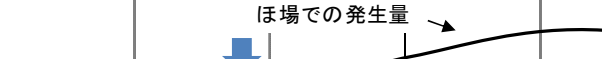
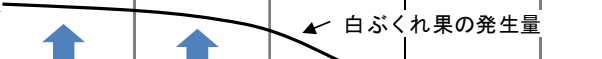
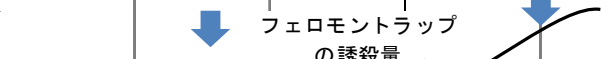
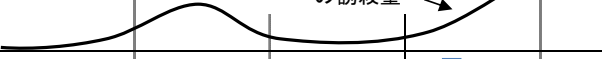
【野 菜】トマトでは、灰色かび病が増加する要因となる葉先枯れ症状も発生しているので、ほ場の衛生管理等耕種的防除と薬剤散布をうまく組み合わせて実施しましょう。

○主な病虫害の発生状況及び今後の予測（7月）

↓ 防除時期

病虫害名 発生量		発生消長の一例と防除時期の目安									防除上の注意事項等		
		7月						8月					
		1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬			
水 稲	葉 い も ち										発生が心配される場合は、箱施薬剤の効果が切れる前に粒剤を散布する。(7月中旬頃) 葉いもちが発生したら、粒剤ではなく治療効果のある茎葉散布剤を使用する。 幼穂形成期頃までは、発病株が増加(水平進展)し、その後、上位葉へ進展(垂直進展)する。 高温・多湿条件で病斑は拡大する。 薬剤散布によって病斑の上位葉への進展を阻止する。 飛驒地域では、初飛来が7月中旬頃となる。 8月になると全域で発生が認められるが、基本防除は斑点米カメムシ類と同時期に合わせて防除する。		
	発生量: やや多	本田での発生量						(穂いもち)					
	紋枯病												
	発生量: 並	水平進展						垂直進展					
	セジロウンカ												
	発生量: 並	初飛来						本田での発生量					
果 樹	斑点米カメムシ類										畦畔などのイネ科雑草で増殖するので、こまめな草刈りで穂がつかない管理を徹底する。 出穂の7～10日前までに地域一斉に草刈りを実施する。 7月に雨が少なく増殖しやすい。 夜温も高くなり、徐々に果樹園への飛来が多くなる。 特に蒸し暑い夜は突発的に多飛来する場合があるので注意する。 7月はクサギよりチャバネアオカメムシの誘殺が多い。 飛驒地域では、定期防除で被害は少ない。 フェロモントラップへの誘殺は8月～9月に多い。 6月から葉に発生が見られ、梅雨時期～夏期の高温多湿で急増する。 発病適温は葉が20～30℃、果実が15～25℃。		
	発生量: 並～やや多	畦畔で増加						本田へ侵入					
	果樹カメムシ類	予察灯への誘殺量						定期防除					
	発生量: やや多	フェロモントラップの誘殺量						ふ化幼虫発生期					
	ナシヒメシクイ												
	発生量: 並	ほ場での発生量						定期防除					

6～8月は「農薬危害防止期間」です。農薬ラベルの表示事項の遵守と周辺環境への飛散防止を徹底しましょう。

病害虫名 発生量		発生消長の一例と防除時期の目安									防除上の注意事項等
		7月						8月			
		1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬	
ホウレンソウ	べと病										高標高地帯や冷涼な年以外は、7月の発生はほぼないが、春に発生があった地域は注意する。
	発生量: やや少										
	タネバエ										
	発生量: 並										
トマト	灰色かび病										作業遅れ(葉先枯れ除去)が病気の蔓延につながる。降雨時間が長いほど発病好適条件(高湿度)となる。
	発生量: 並～やや多										
	すすかび病										
	発生量: 並										
	アザミウマ類										
野菜全般	タバコガ類										防虫ネットで侵入を防止する。ナス等の露地栽培は、発生初期に防除を実施する。例年、7月中旬頃幼虫の食害が認められる。
	発生量: 並										
	アブラムシ類										
	発生量: 並										

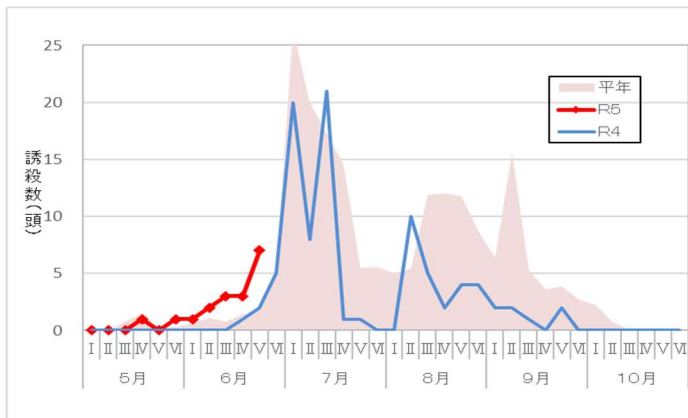


図1 予察灯によるチャバネアオカメムシ
誘殺数の推移 (高山市国府町)

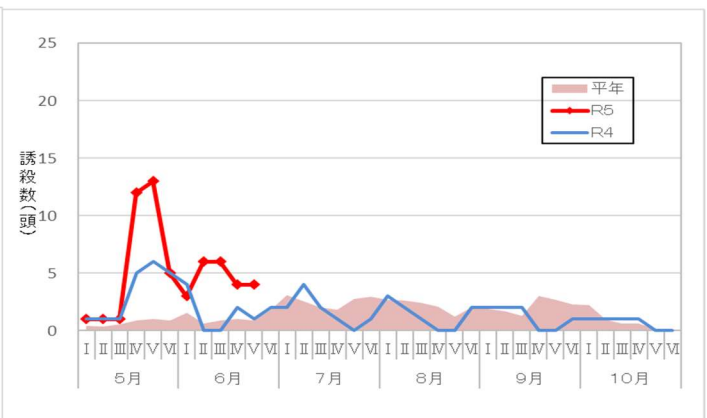


図2 フェロモントラップによるチャバネアオカメムシ
誘殺数の推移 (飛騨市古川町)

東海地方1か月予報 (7/1～7/30) 名古屋地方气象台 6月29日発表

向こう1か月の平均気温は平年並か高いでしょう。降水量は平年並が多く、日照時間はほぼ平年並の見込みです。
期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多く、期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データを
ホームページにて公開しています。(トップページQRコード→)

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2934.html>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468

TEL (0577) 33-1111(内線 245) FAX (0577) 34-2706



トップページ



BLASTAM
(いもち病情報)